

社会新報

社会民主党全国連合機関誌宣伝局

〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1

週刊(水曜日発行) 定価180円 1ヵ月700円 送料160円

号外 三春版 2009.07.12

6月定例会(6月11日)一般質問、佐藤弘議員は「入札について」・「住宅問題について」質問に立ちました。

7月5日社会新報号外で「入札について」を掲載致しましたので、今回は「住宅問題について」の全内容を掲載しました。

「住宅問題について」

佐藤 弘議員

住宅問題について、お尋ねいたします。

第1に、桜川河川改修工事や、道路改良工事など、ここ数年の間で、移転を余儀なくされる軒数は、100軒、100を大きく越すと考えられますが、現時点で町で把握している、実態、事業名と、軒数をお尋ねいたします。

第2、移転者の皆さんの気持ちは、今住んでいる近くに出ればと思っていると考えられますが、補償金で町の中の土地は難しいとも聞いております。

町内に空き家・空き地が多くなってきています。町として、地権者と話し合い、移転者のために利活用できればと思います。

また、中学校の統合の新校舎が、町営グラウンドに予定されていることもあり、この際、恵下越(えげのこし)に宅地造成を考えてはと思いますが、町当局の移転される皆さんの、希望を十分に満たす、対応策をお聞きいたします。

鈴木町長

質問にお答えいたします。

桜川河川改修事業につきましては、全区間の設計・調査が完了していないことから、推定ではありますが、該当建物は約60軒であり、内、住居系建物は、40件程度と思われま。

道路改良事業につきましては、県道・飯野三春石川線道路改良工事が、約6軒、県道須賀川三春線道路改良工事及び関連工事・国道288号交差点改良工事で約40軒であります。

次のご質問ですが、公共事業などにおける代替地対策につきましては、地権者の方々一人ひとりの希望条件が違っていることから、一人ひとりの希望などをお伺いしながら、対応しております。

また、地域コミュニティの維持のためにも、出来る限り現在住んでいる近くに移転を実現したいと考えております。なお、空家・空地につきましては、所有者、または管理者の意向が確認できた場合には、地権者の方々に情報提供を実施しております。

今後の代替地対策としましては、新たに、恵下越の宅地造成のような、大規模な集団移転地の造成を実施するのではなく、個別の土地や小規模な開発により宅地化が可能な土地について、土地所有者の方々と協議をしながら、出来る限り、地権者の皆様の希望に沿えるよう、対応していきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

佐藤 弘議員

あの1点だけ、伺っておきたいんですけれども。

一番いい方法だと思うんですよね、やっぱり近くに探してやるっていうか、近くに住むようにして、ということは。

ただ問題なのは、用地、それから家ですね、交渉が始まって、その後に町の方に「どっかねえべが」と来るという、要するに、先ほどの話であると約90軒位の、軒数になると思うんですけれども、この方がやはり、その時その時に対応するっていうやり方じゃなくて、その軒数がやはり、今現在仮に町の中で当てはめていって出来るのか、やっぱりそういう、事前に、探しておくっていうのか、見つけておくっていうのか、来た時には「もう無いよ」という事ではなく、お願いをしたい。

そういう考えで取り組みをしていただきたいと、いう事なんです。

その事について先ほどの話であれば一般的には「どっかねえべが」と来た時に「ちょっと待ってと、今あそこあそこ空いてっけっども、どうだい、ここでは」と、こういう話になるんじゃないかと思うんで、それでは遅いんじゃないかと。

だから、もうこれだけの軒数は移転するという頭でですね、今からこれだけの軒数を貼り付ければどうなのか、とそういうような構想を考えながら、取り組みをしていただきたい、と思いますので、なおですね、取り組み方について、申し上げておきたい。

そういう考えがあるのか、お聞かせ願えればと思います。

鈴木町長

町では桜川の河川改修につきましては、県・国等に要望して参りました。

当然ですね、移転家屋が出ると、いう事を予測をしておりまして、先行的にですね、色んな、あの、代替地として提供してくださる方などですね、情報を収集してまいりました。

ただあの、実際、生活再建の代替地をどこに決めるかというのは、一人ひとりそれぞれ、考え方が違います。

さらにですね、最終的に決定をするというのは、補償額が決まって、契約する段階ですね、補償額が提示を受けて初めて、希望していたがあそこは高くていけないとかね、生活再建の生活設計というのは補償額の提示があつてからなんです、実際には。

そんなことでですね、あの、町は情報収集に努めながら、中には個人で自分の希望地を見つける方もおりますし、あとは町に代替地の情報提供を求めて来る方もおりますので、色んなタイプの方々に対して、対応できるように、町では、あの、代替地対策に今取り組んでいると、こういうことでありますし、あの、これからもですね、あの多くの皆様方に呼びかけをしながらですね、そういう情報収集に努めて参っていきたくと。

そして、出来るだけ全員にですね、町内に再建の地を求めていただくと、こういう事に勤めていきたくと、思っております。

ご理解をいただきたいと思ひます。

以上。